

『倫理コンサルテーション ハンドブック』

- 編著／堂園俊彦
- 著者／竹下 啓・神谷恵子・長尾式子・三浦靖彦
- 定価 本体 3,500 円＋税 ●B5 判 144 頁 ●医歯薬出版刊
- ISBN978-4-263-73188-8



近年、日本医療機能評価機構の評価項目において、倫理的な課題を共有し検討することの重要性が指摘されるようになり、そのような倫理的検討の仕組みとして倫理コンサルテーションが注目されるようになって久しい。しかしながら、実際に経験したことがない倫理コンサルテーションを導入するのは困難なことであり、かくいう評者も自施設で倫理コンサルテーションを導入した際は、いろいろな方々に相談しながら手探りで倫理コンサルテーションを設置せざるを得なかった。この意味で、「どのように倫理コンサルテーションを導入し、実践し、評価し、改善していけばよいか」という疑問に、簡潔かつ解りやすく答えることを目的としている本書は、これから倫理コンサルテーションの導入を考えている方のみならず、すでに倫理コンサルテーションを導入している方にとって“確かな道標”になると確信できる力作である。

本書を読み進めていくなかで私がとくに感銘を受けたのは、実際に倫理コンサルテーションを立ち上げて実施してみないと解らないような実践的な知識が、本書のいたる所で紹介されている点である。たとえば、私がこれまで倫理コンサルテーションを実施してきたなかで重要だと感じているのが、コンサル依頼が来たときの“仕分け”である。現場レベルでの助言でこと足りるのか、コンサルチームを招集すべきか、だれがそのチームに入るべきか等々、本書では倫理コンサルテーションを実施するうえで役に立つ知識を、非常に解りやすく言語化して解説してくれている。

本書のもう一つの特徴は、読む人の状況に合わせて異なる章から読み始めることができる構成になっている点である。実際のところ、所属組織の文化的背景や地域の相違等々、様々な違いによって倫理コンサルテーションのあり方は変わってくるということを本書の執筆者らはよく理解しており、決して理想の倫理コンサルテーションを押しつけることなく、組織が置かれている異なる状況に即した適切な倫理コンサルテーションのあり方を、読者と共に模索したいという姿勢が本書全体を通じて貫かれている。

執筆者らが述べているように「本書を通じて、倫理コンサルテーションが広まると同時に、より望ましい倫理コンサルテーションのあり方をめぐる議論が活性化する」ことで、近い将来、日本における本格的な倫理コンサルテーションのあり方が結実することを願ってやまない。

(金城隆展／琉球大学医学部附属病院 地域医療部 臨床倫理士)